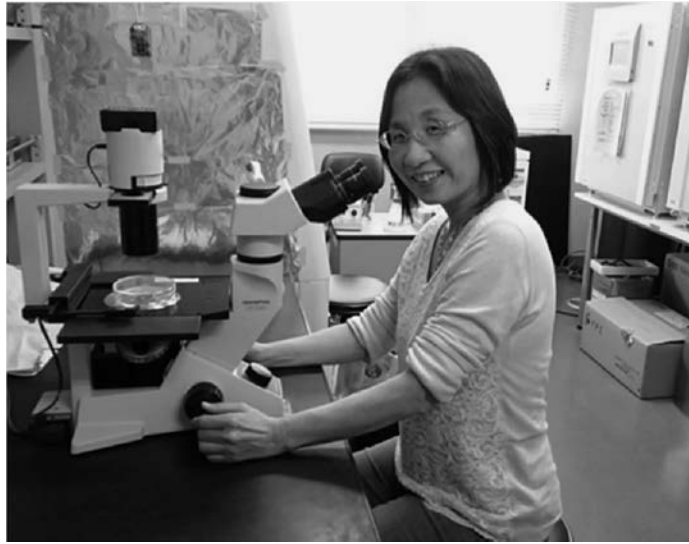


齋藤 祐見子先生



Q先生の研究内容を教えてください。

学問分野は神経科学です。摂食や情動（食欲や鬱、不安、行動）について、脳における情報分子という観点から研究しています。きっかけはGタンパク質共役型受容体（GPCR）の中から、食

欲・うつ・不安に関連するメラニン凝縮ホルモン受容体（MCHR）というものをアメリカにいた時に偶然見つけたことです。この受容体を対象に脳の神経細胞における新しいシグナル伝達経路を解明しようとしています。鬱気味になると食行動に影響が出る場合が多いため、そのつながりも知りたいと思っています。

うちの部屋では学生たちはいろいろな実験をしています。ある学生は行動、別の学生はタンパク質やDNA、さらに脳から海馬（記憶中枢）を取り出し、それを薄くスライスし、培養したシステムにより研究しています。

Q学生時代はどんな風に過ごしていましたか。

学生時代は、スキー山岳部に所属していました。山ばかり行って、しょっちゅう合宿。出身は東京で大学は信州大学でしたが、正月も夏休みもうちにまったく帰らず山ばかり。本当は理学部だけれど、山岳部に入ったことになる(笑)。

Q先生の研究室で研究して、卒業していった先輩でどんなところに就職していますか？

一人は岐阜大学の教員（助教）になりました。

他には製薬会社の研究所とか、研究開発の総合職、理科の高校教員や公務員とか。

私自身、学生時代には大学の教授になるなんて全然思っていなかった。でも生命というものに対してロマンを感じていたので、将来は生命科学に関連した仕事がしたいと強く願っていました。

Q先生の経歴について。

大学を卒業してお茶の水女子大の修士課程に行つて、なぜか、映画の会社に入社しました。

大学の教員は研究一筋の方が多いのですが、私はちょっと違い、映画の脚本を書いていたわけです。科学映画ってご存知ですか？生命科学関係の映画。そのような映画の脚本を一年半位書いてたんです。まあいろいろあつて、そこを辞め、次は医科大学の実験補助の仕事をしてました。

でも補助に飽き足らず、自分の考えで実験を進めたいと思うようになって、東京都の研究所研究員の募集を見て、そこに応募しました。そしたら、その先生は何やってもいいよとおっしゃってくださいって、「じゃあ私、神経やります！」って神経細胞の研究を始めました。それから5年後に、神経の突起

伸長に関する研究で博士号を頂きました。つまり、大学院へ入学せず、働きながら国際誌へ論文を5報書いて研究業績を挙げ、その総合的な論文をまとめ東京大学へ提出しました(英文)。そして、教授陣による審査と公聴会における質疑応答でディフェンスできれば学位が授与されます。そういう制度を論文博士と言います。

学位も取得できたとし、しばらくは東京で安定した公務員として研究をしました。でも、心血注いだ研究がアメリカのグループとたまたま競ってしまい、しかも、研究の深みが異なっていることに気が付きました。彼らの方法論がすごく画期的だったので、このまま日本にいたのでは井の中の蛙のままだ、と思い、東京都の制度を利用して3年間アメリカに行きました。

そして、帰ってきて埼玉医科大学の講師になりました。でも講師だと自分の裁量範囲とか決定権が狭いことに気づき、教授になろう、と。自分の研究室を持てば、自分の考えで学生さんといろんなことができるし！それで大学に応募しまして、広島大学が採用してくれたので、来ました！ここで私の研究

者としての長い放浪生活も落ち着くと思います。

(先生のアメリカでの話がとっても面白かったです。気になる人はぜひ先生に聞いてみてください！)

Q最後に総合科学部の学生に一言お願いします。

なんでもいいので何か一つ夢中になるものを持つて欲しいなと思います。学生時代の私だったら山でしたね。結果として実験科学に必須ともいえる体力が付きました。実は、家事の得意な配偶者も山の中で見つけたんですよ。あと、理系であっても、海外の方と社会問題を話せる哲学は大切かも。今、日本で、そして世界で起こっていることをキャッチし、それについて自分の考えを述べる力とか持てば、これからの時代を力強く生き抜くことができると思います。

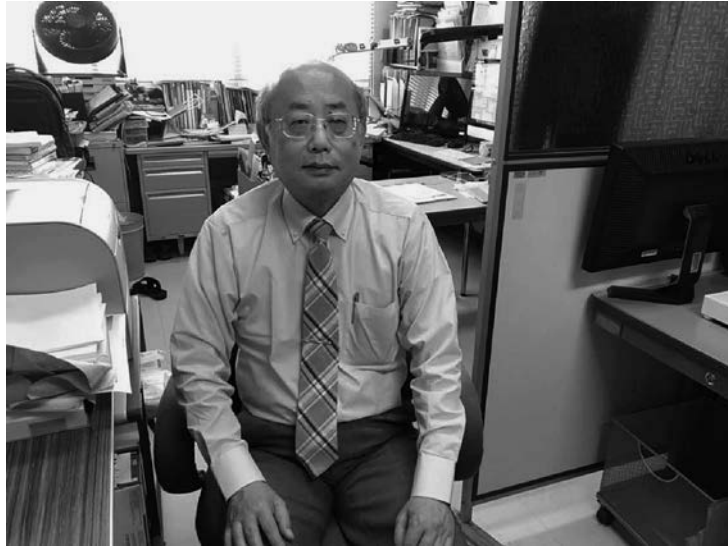
(インタビュー担当…中野有晟、名嘉正敏、大西志菜乃、山本泰平)



★人間探究領域

人間行動科学授業科目群

岩永 誠先生



Q 研究内容について教えていただけますか？

臨床心理学という分野で、人の心の問題を扱っています。現代社会が抱える、メンタルヘルスの問題が引き起こされる原因、そして改善策を探る

ために、恐怖、不安、鬱、ストレスをテーマに研究しています。鬱が引き起こされる大きな原因は、ストレスです。人が抱えるストレスは、職場や家庭など個人の生活環境の違いによって異なります。また、感じるストレスの種類や、ストレスの感じやすさ（ストレスへの強さ）の程度も、各個人によって様々です。それらを個別に調査していく中で、どういう人がどういう状況に置かれたときにストレスを強く感じるのかを整理し、そのストレスが継続することで人が鬱に至る過程を明らかにしようとしています。

加えて、音楽心理学の研究もしています。音楽を聴くことによって人の感情がどう変わるか、といったことがテーマです。音楽によってつらい、悲しいといったネガティブな感情をうまくコントロールすることが、鬱への対処にならないかと考えて研究しています。みなさん、悲しい気分になった時は、どんな音楽を聴きますか？明るい音楽を聞いて、気持ちを切り戻そうと考える人もいるかもしれませんが、実は悲しい気分になった時は悲しい音楽を聞く、という研究結果が世界的に

は多い傾向にあります。少し意外に感じますよね。なぜかというのはまだ十分には解明されていないのですが、悲しい気分の人に悲しい気持ちになるような音楽を聞くことが実は悲しみを解放するという、同質性の原理によるのではないかとされています。

そして、リスクについても研究しています。人が何を基準に危険性を評価するかを調査して、災害時の適切な避難などに生かすのが目的です。

Q 鬱やストレスの研究に興味を持った理由は何ですか？

人間の「本当の状態」を見る際、不安やストレスというものはとてもいい素材だと思ったからです。人間というのは、いわゆる「普通の状態」だと、こんなことしたら人に笑われるかも、こんなことしたらバカにされてしまうかも…と、危機感から自分の行動を一生懸命コントロールしていますよね。だけど、焦ったり予想外の行動を取ったりしてしまうと、自分をうまくコントロールできなくなると、素がポツと出ちゃうことがありますよね。この時がある意味、人間の「本当の

状態」なのです。不安やストレスは、人間にとってものすごく負荷を感じるもので、自分自身を何とか取り繕おうとする余裕がなくなります。だから、不安やストレスを感じた時に人間の本質や問題が出てしまうのです。

しかし、不安やストレスを感じた際の人間の行動をただ単に調べていくだけでは不十分で、それらをうつ症状の予防やストレスへの対処方法に生かすことで社会に還元しています。

Q 研究をこれからもしていくと思うのですが、今後の目標について教えてください。

今はいつ病の「予防」の研究に力を入れていきます。ストレスがあるのは生きていけば当たり前、問題はそれによいように対処して、うつ病になるのを避けるかが大切です。先に述べた通り、ストレスの種類や感じやすさの程度には個人差があるので、それに対応した予防策が必要です。例えば日常生活を変えてみる、朝起きる時間を変えるとか……。

人が極限状態に追い込まれ、考えうる行動の選択肢がどんどん絞られ、そのことよって問題を

引き起こしていく、というメカニズム本体こそが一番興味があります。

Q 総合科学部のいいところを教えてください。

研究において、課題をブレイクスルーできる可能性が高いということです。ブレイクスルーというのは、私の経験上、必ず他の領域、つまり自分がやっていることとは違う領域と何らかの形で接点を持った時に生まれるんですよね。色々な領域に触れながら、あ、この方法は自分の研究に使えるな、と感じたものを導入する。そうやって生み出された方法は新しいものですよね。専門領域を持ちながらも多くの領域に触れられる環境が整っている総科ならではの利点です。

だから、ぜひ色々な領域の人たちと話をしてください。あなた達は自身が色々な領域のことを学ぶようになるわけですよ。これはすごく面白いことでしょうか？だって友達と話をするわけだからそんなに肩に力を入れず、ざっくばらんに他の領域に触れることができるじゃないですか。その友達、三年生、四年生になってくるとその友達の指導教員に聞いたりとか簡単にできるでしょうか？だ

って僕、学部四年生の頃っていうのは、心理やろうか情報やろうかってよく分からなかった時代で。何してたかっていうと、心理系の先生の所と情報系の先生の所とほぼ半分ずつ行ってたんですよ。で、そこで色々なことが聞けることのおもしろさ。総科の先生っていうのは、学生たちが来ることをすごく喜ぶと思います。ぜひ、色々なところに行つて色々なディスカッションをした方がいいと思います。

Q 最後に総合科学部の学生へ一言お願いします。

要するに何事にもチャレンジすればいいと思います。さすがに社会に出たら失敗は許されませんが、学生までは失敗は許される。学生までは失敗しても先生や親がフォローしてくれるので、失敗することを恐れてはいけません。むしろ、失敗して教訓を得ることが大切です。こういうことをやったら失敗するぞ、ここに気を付けておかないと失敗するぞ、っていう項目を知っておくと、社会人になってから何かをしようとする時にそのことを適用できるわけですよ。抑えるべきポイントを幾つか知っておくだけで、失敗しにくくな

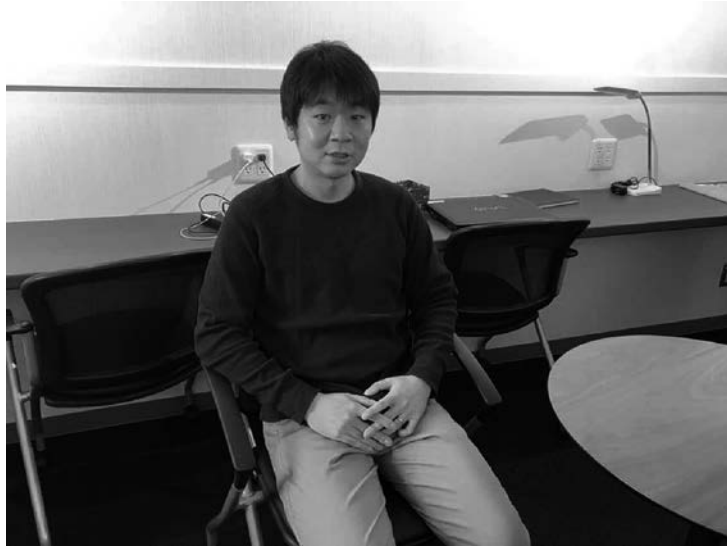
る。だから、今のうちに失敗するっていうのはいいことですよ。ただ、社会人になって独り立ちしたら、誰もフォローしてくれないということは頭の片隅に入れておいてくださいね。だからこそ、今、チャレンジするのです。

(インタビュー担当…市村風花、小倉諒香、石橋亜光)

★人間探究領域

人間行動科学授業科目群

有賀 敦紀先生



Qまず、先生のなされている研究について教えてください。

専門は認知心理学で、人間が外の世界をどう見ているのかとか、どうやって認識しているのかな

どの研究をしています。具体的に言えば、例えば車の運転などをしているときにずっと外の世界に注意を向ける必要があるわけです。ただ、人間の集中力の持続時間は限界があつて、20分くらいでパフォーマンスは落ちてきます。それで、なぜ集中力は低下してしまうのか、逆に集中力はどうやって維持されるのか、何に注意がとられてしまうのか、というのも一つの研究テーマとしてやっています。

もう一つは、消費者行動に関してで、人間がものを買うとき、何に基づいてものを買うのか、それをさっきの認知心理学を応用して調べています。

人間は目立つものに注意が行くので、何に注意をとられるのかっていうのを広告やCMとかに生かせないか、という研究もしています。

Q認知心理学に興味を持ったり、その研究を始めたきっかけはなんでしょうか？

きっかけは、学生の時に受けた認知心理学の授業です。

大学でいろんな種類の心理学の授業を受けた

中で、認知心理学を受けたら、「こんな簡単に人の心が測れるのか」って。それで認知心理学の授業の先生のところに行って色々な本を借りたりして、結果的にその先生のゼミに所属して卒業研究とかもやった、というのがきっかけですね。

Q先生が今まで様々な研究をしてきた中で一番難しかった、苦勞をした研究は？

うーん、今のかもしれないです。今は消費者行動で、商品の配列効果というのをやっています。商品を垂直に並べると水平に並べるの、どっちがよく売れるのかっていうテーマがあつて、それを最初に調べたアメリカの研究者は人間の目は横についていて視野が横に広いので、水平配列の方が絶対売れやすいということを主張しています。

でも人間の目って動くし、頭も動くので水平配列が特別有利なわけではないはず。そういうことで研究をやって、実際日本人を対象に実験したら水平配列も垂直配列も同じくらい商品選択に影響を与えることがわかりました。

で、何でアメリカ人は同じ状況なのに水平配列

だけ有利かって考えると、英語って横書きなんで
す。

で、日本人には縦読みの文化と横読みの文化両
方あるから、日本人は横書きの文章を読ませた後
に買い物をさせると水平配列の中からよく選ぶ
し、縦書きの文章を読ませた後だと垂直配列の中
からよく選ぶ、みたいなのを見つけて、それを今
論文で報告してるんだけど、なかなか認められな
くて(笑)。それに今苦勞してます。

Qじゃあ言語によって変わるってことですか？

たぶん。そうすると商品を置く順番とかも大切
になってきて、多くの文化って横読みの場合は左
から右に読むけど、アラビア圏って右から左に読
むでしょ？そういう文化の違いって消費者行動
にあるんじゃないかって思ってる、そういう研究
を今している最中です。

Q実験して生活とかに生かすときに「あ、この人
こういうこと考えて、こういうことしてるんだろ
うなあ。」って思ったりすることはありますか。

いや、ないです。みんなこれから心理学を学ぶ
と思うんだけど、心理学を学んでわかることって

いうのは人間の心がいかに読めないのかってい
うことです。僕が行き着いた答えはそこです。

例えば友達と接してて、この人外交的だな、内向
的だなんて話してるとわかるでしょ。性格検査で
あってもその程度しかわからないです。なんと
なく「この子こういう子だな」って感じることを数
値化して調べることができなのが、心理学です。

Q研究の魅力を教えてください。

わからないことがわかったときっていうのは
嬉しいですね。認知心理学って消費者行動までいけ
ば人の役に立つんだけど、そうじゃなければ直接
的に人の役に立たないんです。こんなことやっ
ても世の中の役に立つかって言ったら役に立た
ないんだけど、でも自分は役に立たなくても何か
がわかったら嬉しいですね。

周りの人に「それやってなんの役に立つの？」
って言われてもそんなのほっといてくれと。だか
ら研究には自分が楽しいことを追求していくっ
ていう楽しさがあるかもしれないです。

Q今後の目標はありますか。

心理学を使えばこういう新しい世界があるん

だよっていうのをできればいいかなと思ってい
ます。例えば、マーケティングの世界とかって
うのは心理学をあまり知らない人たちがやって
いるので、心理学者から見るともったいないです。
なので、そこに貢献できればいいかなと思ってい
ます。

Q総合科学部の学生に向けてメッセージをお願
いします。

興味がないと思った授業でもとってみること
です。自分の興味が決まってる人になりがちなの
が、興味がない授業はとらないことなんだけど、
それは良くないです。高校までに得た知識とかっ
てすごく限られた世界の話なので、それに縛られ
るのはよくないです。たとえ興味がない授業を受
けてそれでも興味が持てなかったとしても、大学
でそれを知ることには価値があると思っています。

もう一つ、大学って勉強とか研究とかする場所
なので、何か興味のあるものを見つけたらどんど
んそれを追求したほうがいいです。先生のところ
に行つて本を紹介してもらおうとか。図書館に行つ
て勉強するとか。人からそれをやってなんの役に

立つんだよって言われようが、自分はそれで面白いんだっていう信念を持ってやってもらえたらなーと思います。これをやったら就職に役に立つとかっていうのは僕はあんまり考えて欲しくな
いです。

(インタビュ―担当…市村風花、小倉諒香、治田
遥花)

★社会探究領域 地域研究授業科目群

崔 真碩先生



Q 最初に、先生が専門としている研究について教えてください。

私の専門は文学です。大学のときに文学と出会って、そこからは文学一筋ですね。もともと私は日本で育った朝鮮人なので、そういう意味において自分のアイデンティティーをどこに求めればいいのかで苦しんできました。日本人でも韓国人でもない、俺は何者なんだっていう葛藤がずっとあって、でも文学を読むと、そういう葛藤は普遍的なテーマで世界中の名作にもたくさんあるんですよね。それを知ったときに、自分は一人じゃないんだって気づいて、救われて、そこから文学にのめりこんでいきました。専門は文学でやって

きたんですけど、授業ではポストコロニアル論や東洋平和論、つまり植民地の問題や東アジアの平和についてやっています。

Q 先生の研究分野の一つであるポストコロニアル論について教えてください。

日本もかつては帝国で台湾とか韓国を植民地支配しましたが、そういう植民地支配的な仕組みは今も残っています。例えば、福島原発（島根原発）が発電した電気を遠く離れた東京（広島）で消費している、とか。原発が立地する過疎地は、国内植民地です。私たちは電力会社の奴隷？です。噛み砕いて言うと、誰かを犠牲・踏み台にして誰かが利益を得る、その問題性を問うのがポストコロニアル論です。

Q 朝鮮戦争の終結に向けた動きが加速していることについてどう思いますか？

朝鮮戦争は東アジア冷戦構造形成期に米ソ対立の煽りを受けて起きた戦争で、もともと北と南とで仲が悪かったわけではありません。ただ、その戦争が未だに終わってなくて、韓国では2年、北朝鮮では10年の徴兵の義務があります。南北首脳会談、史上初の米朝首脳会談と、今、アジアが、世界史が朝鮮戦争終結に向けて、平和に向けて動き出しました。すごく楽しい時代を私たちは迎えて

いると思いますよ、本当に。

Q 日本の文学と韓国の文学の相違点について教えてください。

韓国は、政治・歴史がダイナミックに動いています。韓国の文学はそれを抱きとめる。そして政治に呑み込まれるのではなく、政治を内側から食い破っていくような強さがあります。韓国の文学者は政治的な表現・発言をものすごくするし、影響力もあります。日本の場合、あまり政治的発言をしませんよね。ほとんどがノンポリ。そこが違います。文学的な普遍性を共有している一方で、闘う姿勢っていうんでしょうか、そういうものが今の日本の文学者には希薄なように思います。まあ、これは文学者に限らず、日本社会全体に言えることなのでしょうが。モチベーションが死んでいる。

Q 日本で人気のK-POPや韓国で人気のある日本のものを通じて、韓国との関係が良好になることはありますか？

あります。私は韓国語の授業もやっているのですが、学生の中にはK-POPが好きな女性が多いです。彼女たちは韓国語を学びたいというモチベーションの塊です。彼女たちは他者や異文化に対する興味だけで授業に来ていて、私は授業しながら

いつも、「こういう学生たちが増えていったら日韓関係は何の問題もないなあ」って思っています。だって、彼女たちは極めて平和的で、争いとは真逆ですから。

Q 韓国の人は日本人が韓国の人に対してどういうイメージを持っていると思いますか？

難しい質問ですね……。今は不景気が日本人気があることを皆知っているし、韓流が根付いたと思っっているのではないのでしょうか。敵対的というよりは友好的だと思います。日本文化が好きな人も多いし、日本語に対する関心もずっと高い。多くの人が日本を尊敬していると思いますよ。おそらく、多くの日本人が思っている以上に日本の影響力や存在感は大きい。逆に、日本人は、韓国人は日本に対して「反日」的だというイメージを強く抱いているのではないのでしょうか。それは事実でもありますが、しかし、これは授業でもよく言うのですが、そもそも「反日」っていうのは、反日本帝国主義・軍国主義の略です。日本的なものにはすべて反対するという意味ではありません。つまり、宮崎駿や村上春樹が大好きなことと安倍晋三が大嫌いなこととは決して矛盾しないのです。

Q 日本人が、韓国人に比べて政治的な意見を表明

することが少ないのはどうしてですか？

1960年代の安保闘争のときの日本の大学生は元気でした。でも今は元気がない。それはたぶん高度経済成長を遂げる過程で、物質的な豊かさや人々の政治感覚や抵抗心を麻痺させたんだと思います。それに今では安倍政権の犬と化したマスコミによるメディア・コントロールのせいで、国民の知る権利が奪われてしまっています。付度付度と頻りに言いますが、はっきり言って今の政治体制は恐怖政治です。こんな政治状況じゃ、国民は怖くて何も言えませんよね。その一方で、韓国はどうかというと、例えば朴槿恵前大統領の腐敗政権を倒すために、半年間で延べ1700万人がデモに参加しました。キャンドル革命です。特筆すべきなのは、一人の逮捕者も一人の怪我人も出ていないということです。無血革命。非暴力の偉大さを示したとも言えます。革命韓国と比べると今の日本は死に体なのですが、それじゃ何もないかというところではない。実は、ヒップホップやボーカロイド、サブカル分野では革命は起きているんですよ。最近、学生に教えてもらったんですが、ピノキオピーの「モチベーションが死んでる」っていう曲があって、ぜひ聴いてみてください。今のこの笑えない日本社会を丸ごと抱きし

めています。目から鱗が落ちます。いや、涙も。

Q 最後に、総合科学部の学生に一言お願いします。

もしも権利を奪われていたら、権利を主張してください。権利の主張はやっぱ民主主義の根本です。人権と言ってもいいです。日本人は人権や知る権利について鈍感すぎる。それは民が主役の民主主義じゃなくて、飼い馴らされているだけの奴隷です。俺たちは植民地じゃない、奴隷じゃないのだから、まずは感情的に権利を主張するべきです。権利を主張することと怒ることとは同義です。泣き寝入りしちゃ駄目ですよ。そこで萎えちゃ駄目ですよ。「モチベーションが死んでる」を聴いて元気を出して下さい。

(インタビュー担当：奥野慎也、長野葵、富永和奏、横山駆)

★社会探究領域

社会フィールド研究授業科目群

浅野 敏久先生



Q まず、先生の研究内容について教えてください。

環境運動、自然保護や環境に配慮したまちづくりや市民の環境にからんだ活動などを研究しています。専門は人文地理学で、自然保護運動、あるいは開発反対運動を地理学の観点から研究しています。

Q 先生が人文地理学に興味を持ったきっかけは何ですか？

ゼミで川の管理、川と人の関わりについて学んだことがきっかけです。理系で大学を受験しましたが、自然科学的な川の理解ではなく、文系からの自然と人間の関わりも面白いと感じていて、途

中で文系の地理学に移りました。地理学は文理融合的な学問でしたから、転向することに抵抗はありませんでした。つまり、環境問題に興味があったままアプローチする先が地理学でした。

Q 先生はいろいろな研究を進めていらつしやると思うのですが、今一番大変、難しいと思うことは何ですか？

難しいと言った時に、研究が難しいというより、研究の時間が作れないという：（苦笑）。

その研究だけであればいいんだけど、限られた時間の中でしないといけないから難しいよね。あと、そもそもやっていることが漠然としているので、答えがわからないということですね。最近では純粋に「保護」っていうよりも、みんなが積極的に自然を大事にすることが必要だと考えていて、そのための社会の仕組みを作りたいと思っています。例えば東広島にもいるオオサンショウウオを保護するためには、川を汚さないようにしなきゃいけないとか、巢を壊さないようにしなきゃいけない。単純に生き物だけを考えれば川に税金を投入して元の自然みたいに直せばいいし、周りの事業を禁止してしまえばいいんだけど、そんなことは現実的にありえない。地元の人達による川の管理を自然に配慮した形にするとか、周りの土

地利用をちゃんと考えていくとか、周りの人が理解して協力しないと保護にむけて動かないよね。だけどその時にオオサンショウウオを大事にしていることが、小学校での環境学習の材料になっているとか、観光客を呼びかけになっているとか、あるいはそれに関連したグッズを作って売に生かしているとか、保全すると地域にとってメリットがあるってなってくれば、上手くそれを利用していかうっていう風になると思うんですよね。どんな風にご利用していくと、自然に悪影響を与えないで保全につながるのかを考えましょう、っていう話を最近しています。その中で難しいのは、どうするとみんなが納得するようなことを決めれるか、どういう風にするに関心がない人が話し合いの場に来てくれるかとか、どういう風にするといろんな立場の人が保護問題に対して関心を持つようになるかということです。そこまでの段取りの組み方や話の進め方、どういう利用の仕方を提案したらみんなの理解を得ることができて実際の行動につなげられるのかっていうところは、難しいところだと思います。

Q 研究を続けていこうと思える魅力はありますか。

例えばオオサンショウウオのような、珍しいも

のも見て、それが死に絶えないようにできたら達成感があります。

Q 先生の学生生活はどのようなものだったのですか。

大学の頃は陸上部に入っていて、競歩をしていました。強くはなかったけど、時間的には相当打ち込んでいたと思います。部活の他には、地理学の教室の人たちといろいろな話をしたり旅行に行くことが多かったです。

Q 先生のホームページを拝見すると韓国自然环境の研究もされているようですが、どうしても韓国の自然環境にも興味を持つようになったのか教えてください。

日本の水資源開発の反対運動や環境改善運動を調べていくなかで、韓国で日本では無いような規模で干拓の問題が起こっていることを知りました。日本ではあまり報道されなかったけれど、韓国では大規模なデモ運動が起こっていました。韓国人の先生が代表になり、日本で似た研究をしている人を巻き込んでその運動についての共同研究を始めました。僕もその中の一人だったので、日本と韓国は結構似ているようで違うところもあるのでは面白いなあとという感じでしばらく関わっている、というような話になっています。

Q 日本人と韓国人では、環境に対する意識の違いはありますか？

韓国人にも環境を大切にしようと考えてる人は多いと思います。差があるとすれば、日本の場合は、関心は持っているが社会運動をしようと思う人はすごく少ないところです。それは世界的にもそうです。しかし韓国はすぐ動きます。その動員力があります。日本と比べると市民運動に参加するハードルがずっと低いです。文化なのかなと思います。韓国の場合は民主化を獲得したのは市民運動の成果なので、成功体験のもとに今ある韓国と、学生運動など、失敗体験のもとに今ある日本とは社会運動の在り方がすごく違うと思えます。社会運動に対する感じ方がすごく違うなと思います。

Q 最後に総合科学部の学生に一言お願いします。

総科生が四年間あるとは限らないけど、その中で大学の中だけにいるんじゃないで、どこかフィールドに出て行って、実際の社会を知る機会を生懸命作ってほしいと思います。例えばオオサンショウウオを保護している現場に行つて川の調査をしたりとか、地元の先生と話をしたりするような機会を設けると授業と違った学びができるし、そこでできた人脈みたいなものが将来に生き

ていくこともありえるので、単位とかとは関係ないけども、そういう機会をぜひ生かしてもらいたいかなと思います。そういう活動を地元の人は積極的にサポートしてくれれます。大学と下宿の往復になんないように、せっかくこの環境があるので、それをぜひ活かしたらいいんじゃないかなと思います。

(インタビュ担当…大沢帆風香、原西麻生、福本理乃)